

防災



小学校中学年以上

道徳

学級活動

総合

証言記録 東日本大震災 43分

第14回 宮城県南三陸町 ～高台の学校を襲った津波～

(2013年放送)

この番組の良さ



防災教育として

津波は、今回の東日本大震災でもたくさんの被害を我々に及ぼしました。

この番組は、被害にあった宮城県南三陸町戸倉地区の戸倉中学校を中心に、津波が襲いかかってきたシーンだけでなく、災害後に、教師をはじめ中学生や地域の人たちが、どのような行動をとったかを伝えています。

災害時の行動

「絶対に津波は来ない」と思っていた高台に建つ戸倉中学校。そこには、中学生だけでなく、戸倉地区の住民も避難してきていました。しかし、津波は、学校に襲いかかり、人々をのみ込みました。その時、教師や中学生が人々の命をどのように救ったか、また、助けられなかった人々への思いや、自分たちも危ないのに、なぜ助けようとしたのかなどについて、考えさせることができます。

番組活用のポイント

「被災者」としての意識から、その時、自分たちができる最大限の行動を考えさせる

この番組では、津波の恐怖の中で、流されそうになっている人を引き上げたり、低体温症に陥った人を自分の体温で暖めて助けた中学生たちが描かれています。もしかすると自分が逆の立場で、津波にのみ込まれていたかもしれない恐怖。肉親や同僚、友だちを失った失意の中で、それでも懸命に命を救おうとした教師や子どもたちが登場します。

避難指示の大切さ

宮城県南三陸町立戸倉中学校は、海拔20メートルの高台に建てられていました。しかし、20メートルを越す津波がこの戸倉地区を襲い、平地にあった小学校は水没し、町全体も津波にのみ込まれました。地震発生とともに、戸倉中学校の校庭には100人を超える人々が避難してきましたが、その時、容赦なく津波が襲いかかりました。その直前、同校の教師が、住民や生徒たちに避難指示を出しましたが、津波の速さは予想以上に速く、一部の避難してきた人々をのみ込んでしまいました。避難指示が遅れていたなら、もっと多くの人たちが犠牲になったことがうかがわれます。そういった場面から、指示を出すことの重要性を話し合えます。

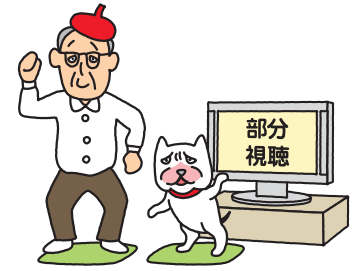
助けよう、役に立とうという意識

目の前で、浮き沈みする人、必死になにかに掴まっている人がいる。そういう状況を見て、同校の教師や中学生は、地震のショックから立ち直る余裕もないままに、今度は自らが救助者となって救助の手をさしのべました。その行動は、それまでに訓練されたことではなく、事前に学習したことでもありませんでした。その時、救助に当たった人たちが、「一人でも多く助けてあげなければならない」という強い意識と、仲間や友だちとの協力により、自らも危ない目にあいながら、人々を救出したことを回想するシーンがあります。

(加藤悦雄)

学習展開例

授業時間 45分

被災者であってもできることは？
自分たちなら、なにができるか

防災

時間配分	学習活動	教師の支援
5分	① 東日本大震災について知っていることを出し合おう。	○東日本大震災について、情報共有する。
5分	② もし、災害が起こったときに、まず自分たちは何をするか、グループで話し合う。	○災害が起こったときは、まず自分の命を守る事が大事であることを確認する。
10分	③ 番組を視聴する。  (11分45秒～21分45秒)  ・震災の翌日の戸倉地区  ・使われなくなった戸倉中学校校舎  ・震災一年後に戸倉中学校で卒業式を挙げる	○番組内容に集中させるために、メモなどは取らせない。
15分	④ 番組に出てきた中学生の行動について意見を出す。 ・自分たちにもできるような気がする ・命からがら逃げたので、できない など	○自分の命を守ることを最優先し、賛否両方の意見を取り上げる。
10分	⑤ 災害が起こったときに、自分たちでできることは何か考える。	○災害のショックの後でも、自分たちにできることがあることを確認させる。

コラム

災害のあとにできることを考えさせよう

災害時にあって助かった後、自分たちだったらどう行動するかを考えさせたい番組です。

そういった状況になってから取り組むことは不可能なので、平常時から考えさせることが大切です。「やれ」と言われてするのではなく、自主的にできることを、番組の中で子どもたちの行動を通して考えさせることが大切です。災害後にも自分たちにできることがあることを考えさせるのに適した番組です。

ティーチャーズ・ライブラリーでは、他にも防災意識を育てる番組を用意しています。『シンサイミライ学校 いのちを守る特別授業～“釜石の奇跡”片田敏孝教授と子どもたち～』（2013年度版P.42）や『クローズアップ現代 首都直下 震度7の衝撃～どう命を守るか～』（2013年度版P.44）などをラインアップしています。授業を受ける学年や校種ごとに、様々な防災教育の番組が活用できます。